

FLORA bd100

HITACHI
Inspire the Next

ソフトウェアガイド

100X6

Microsoft® Windows® XP 編

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。

このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

2008年4月(初版)(廃版)
2010年3月(第4版)

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部または全部を、無断で転載または引用することを禁止します。
- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本製品を運用した結果については責任を負いません。なお、保証と責任については保証書裏面の「保証規定」をお読みください。

登録商標・商標について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
Intel、Celeron および Core は Intel Corporation の登録商標または商標です。
Sun、Sun Microsystems、Java は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
Symantec Ghost は、Symantec Corporation の商標です。
その他、各製品名、各会社名は、各社の商標または登録商標です。

著作権について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

© Hitachi, Ltd. 2008, 2010. All rights reserved.

はじめに

このたびは日立の FLORA bd100（以下、FLORA bd）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このマニュアルは、クライアントモジュールの初回時の起動と、システムの動作が異常になったときの再インストールについて記載しています。

本モデルは、ダウングレード代行サービス付モデルです。

お客様に代わり、Microsoft® Windows Vista® Business Blade PC Edition のダウングレード権を使用し、Microsoft® Windows® XP Professional Blade PC Edition をインストールしてご提供するモデルです。

Windows XP での動作は、マイクロソフト社および弊社のサポート対象外となります。



Windows Vista のダウングレード権については、次のマイクロソフト社の Web サイトをご参照ください。

- ホームページアドレス：
<http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsvista/buyorupgrade/downgrade/default.msp>

マニュアルの表記

□ マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

注意	これは、装置の重大な損傷*、または周囲の財物の損傷もしくはデータの喪失を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。 *：「装置の重大な損傷」とは、システム停止に至る装置の損傷をさします。
 制限	装置の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
 補足	装置を活用するためのアドバイスを示します。

□ 関連マニュアル

ユーザーズガイド：FLORA bd に関する内容を記載しています。

□ オペレーティングシステム（OS）の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

- Microsoft® Windows® XP Professional Blade PC Edition（1RDL Version）
（以下 Windows XP または Windows）

サポート & サービスのご案内

困ったときには

□ お問い合わせ

Windows に関するインストールおよび各種設定項目などのお問い合わせについては、有償となります。

詳細は、次で紹介しています。

- ホームページアドレス
<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/service/index.html>
- メールアドレス
supportservice-soft@itg.hitachi.co.jp

□ 日立ソリューションサポートセンタ

- FLORA bd サポートサービス
フリーダイヤル：契約締結後、別途ご連絡いたします。
受付時間 : 8:00 ~ 19:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

□ 最新情報の入手

最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェア アップデートプログラムなどを提供することがあります。この場合、次の Web サイトでご案内します。

- ホームページアドレス：
<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/prod/cb/index.html>

各アップデートプログラムの適用についてはお客様責任にて実施していただきますが、FLORA bd を安全にご使用いただくためにも定期的にアクセスして、最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアへ更新いただくことをお奨めします。

目次

重要なお知らせ	iii
登録商標・商標について	iii
著作権について	iii
はじめに	iv
マニュアルの表記	iv
サポート & サービスのご案内	v
困ったときには	v
目次	vi
安全にお使いいただくために	viii
運用時のご注意	ix
1 クライアントモジュールをはじめて使うときは	1
はじめて電源を入れるときは	2
電源を入れる	2
使用許諾契約に同意しよう	2
電源を入れ直す	6
電源を切る	6
電源を入れ直す	7
ディスプレイに画面が表示されないときには	7
2 システムの運用と管理	9
ネットワーク構成	10
ネットワーク構成例	10
運用開始に必要な設定	11
Windows のネットワーク設定	11
ハードウェアのネットワーク設定	12
リモートからの電源制御パスワード変更	13
FLORA bd で IPMI を使用するには	14
IPMI のコマンド	14
WOL (Wake On LAN) の設定	15

3	ご購入時の状態に戻すには	17
	準備する	18
	この後の作業の流れ	18
	一括セットアップする	19
	付属のディスクを使った一括セットアップ	19
4	付属ソフトウェアについて	25
	付属ソフトウェア	26
	ソフトウェアの種類	26
	ソフトウェアの個別セットアップ	28

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージにしたがってください。



これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。



これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

注意

これは、装置の重大な損傷*、または周囲の財物の損傷もしくはデータの喪失を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

*: 「装置の重大な損傷」とは、システム停止に至る装置の損傷をさします。



【表記例 1】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】分解禁止

⊘の図記号は行ってはいけないことを示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。



【表記例 3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順にしたがって行ってください。
- 装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。

これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

装置について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

自分自身でもご注意を

装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作にあたっては、指示にしたがうだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

運用時のご注意

注意



再セットアップについて

セットアップし直すとハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは事前にバックアップをお取りください。

1

クライアントモジュールを はじめて使うときは

この章では、クライアントモジュールにはじめて電源を入れたときの操作について説明します。

はじめて電源を入れるときは.....	2
電源を入れ直す.....	6

はじめて電源を入れるときは

はじめてクライアントモジュールの電源を入れるときは、Windows の使用許諾契約に同意して、Windows を使えるようにする必要があります。

電源を入れる

クライアントモジュールにディスプレイ / キーボードが接続されているか確認します。クライアントモジュールの電源スイッチを押すと、ディスプレイに [Windows XP Professional セットアップ] 画面が表示されます。

補足

- はじめてクライアントモジュールに電源を入れるときは、ディスプレイ / キーボードを接続してください。接続していないと、ディスプレイに正しく表示されないことがあります。この場合は、「[ディスプレイに画面が表示されないときには P.7](#)」をご参照ください。
- はじめて電源を入れるときは、セットアップが完了するまで、クライアントモジュールを長時間放置しないでください。
電源の入れかた→『ユーザーズガイド』3 章の「FLORA bd の接続と電源の入れかた」

使用許諾契約に同意しよう

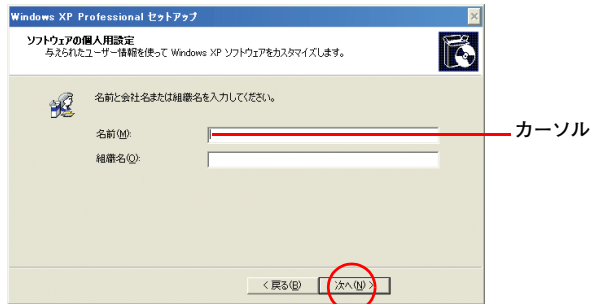
- 1 [Windows XP Professional セットアップ] で、マウスポインターを [次へ] ボタンに重ね、クリックする。
[ライセンス契約] 画面が表示される。

補足

- Windows 起動時は、ディスプレイの周波数を変更しているため、画面が乱れることがあります。
- 画面に表示されている矢印を、「マウスポインター」と呼びます。
- マウス左側のボタンを 1 回押すことを、「クリック」といいます。

- 2 [同意します] ボタンをクリックして、[次へ] ボタンをクリックする。
[ソフトウェアの個人用設定] の入力画面が表示される。

- 3 名前を入力する。必要に応じて [Tab] キーで [組織名] へカーソルを移動し、組織名を入力する。組織名は省略してもよい。
[次へ] ボタンをクリックする。

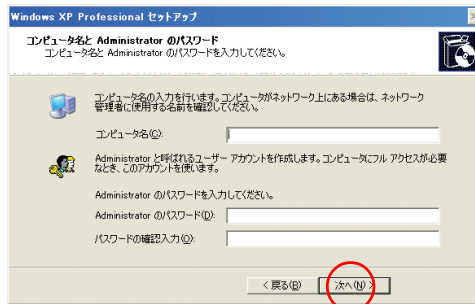


[コンピュータ名と Administrator のパスワード] の入力画面が表示される。

補足

- 日本語を入力するには
 - 1 ローマ字で読みがなを入力する
 - 2 目的の漢字になるまでスペースキーを押す
 - 3 [Enter] キーで確定する
- 操作を間違えたときは、画面の [戻る] ボタンをクリックします。一つ手前の画面に戻ります。

- 4 コンピュータ名を入力する。コンピュータ名はネットワークのほかのコンピュータ名、ドメイン名、ワークグループ名と異なる名称にする。
必要に応じてパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする。

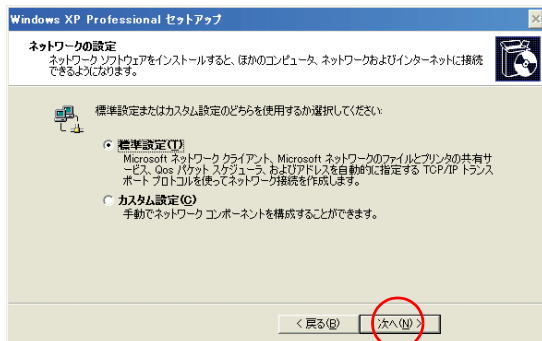


補足

コンピュータ名は初期設定後でも変更できます。

- 5 標準のネットワークコンポーネントをインストールする場合は [標準設定] を選択したあと、[次へ] ボタンをクリックする。

標準ネットワークコンポーネントの設定を変更する場合やネットワークコンポーネントの追加／削除を行う場合は [カスタム設定] を選択したあと、[次へ] ボタンをクリックする。



補足

- [標準設定] を選択した場合、ネットワークの設定は自動で行われます。
- 標準で次のネットワークコンポーネントをインストールします。
 - * Microsoft ネットワーク用クライアント
 - * Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
 - * インターネットプロトコル (TCP/IP)

- 6 [カスタム設定] を選択した場合、ネットワークの設定を手動で行う。

[ネットワークの設定] 画面の設定終了後、[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示される。

補足

ネットワークコンポーネントのカスタム設定は画面の指示に従って行ってください。

- 7 ドメインまたはワークグループへの参加の選択を行い、参加する先のドメイン名またはワークグループ名をテキストボックスに入力する。

[Windows XP セットアップウィザードの完了] 画面が表示される。

- 8 [完了] ボタンをクリックする。

クライアントモジュールが立ち上げ直され、ネットワーク識別ウィザードの画面が表示される。

- 9 [次へ] ボタンをクリックする。

- 10 Windows のログオン時に常にユーザー名およびパスワードの入力を行うのかどうかを選択する。

- 11 [次へ] ボタンをクリックする。

- 12 [完了] ボタンをクリックする。

- 13 自動または手動で Windows にログオンする。

14 必要に応じて、パーティションを設定する。

…
補足

HDD は、ご購入時の選択により、工場出荷時に次のように設定されています。
ドライブ C : 25GB、残りをドライブ D

15 必要に応じてネットワークの設定を変更する。

…
補足

ネットワークをご使用の場合は環境に合わせて変更する必要があります。

電源を入れ直す

Windows の使用許諾契約などが終わったら、電源を切ります。そのあと、もう一度電源を入れて、デスクトップ画面が表示されることを確認します。



電源スイッチを 4 秒以上押さないでください。Windows が強制終了されます。その場合、異常終了と判断され、次回起動時にチェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が起動します。

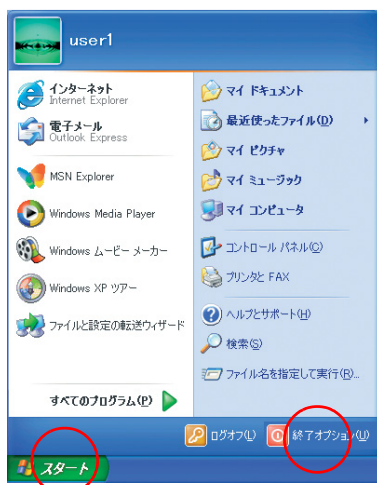


- 電源スイッチを 4 秒未満押しても、手順 1～3 の操作と同じように電源は正しく切れます。
- 工場出荷時の設定では、15 分以上電源を入れた状態で放置すると節電状態になり、画面の表示が消えます。

電源を切る

電源を切る操作はとても大切です。電源は、この操作で切ってください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックする。
- 2 [終了オプション] をクリックする。



[コンピュータの電源を切る] 画面が表示される。

- 3 [電源を切る] ボタンをクリックする。



しばらくするとクライアントモジュールの電源が切れ、電源ランプが赤色になる。

電源を入れ直す



制限

クライアントモジュールの起動時にキーボードを連打したり、押し続けたりしないでください。エラーメッセージが表示される場合があります。



補足

- Windows のスタート画面が消えたあと、カーソルが表示された黒い画面の状態が続く場合があります。デスクトップ画面が表示されるまで、しばらくお待ちください。ディスプレイによっては、時間がかかる場合もあります。
- ディスプレイによっては、画面が中央に表示されないことがあります。このようなときは、ディスプレイに付属のマニュアルを参照し、画面表示を調整してください。
- Windows 起動直後には、ディスプレイの周波数を変更しているため、画面が乱れることがあります。

- 1 クライアントモジュール前面の電源スイッチを押す。
[ようこそ] が表示される。
- 2 ログオンするユーザーのアイコンをクリックする。
Windows が起動し、デスクトップ画面が表示される。

ディスプレイに画面が表示されないときには

ディスプレイ / キーボードを接続せずに、はじめて電源を入れたときには、ディスプレイ / キーボードを接続し電源を入れ直しても、Windows ロゴ以降の画面が表示されないことがあります。この場合には、次の手順で画面を表示させてください。

- 1 電源スイッチを 4 秒以上押し、電源ランプ (PWR) が赤点灯するのを確認する。
- 2 ディスプレイ / キーボードが接続された KVM ケーブルを、クライアントモジュールに接続する。
- 3 30 秒以上待って電源スイッチを押す。

- 4 画面下部に「Press DEL to enter SETUP, F12 to enter BOOT MENU」が表示されたら、[F8] キーを押し続ける。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示される。
- 5 [F8] キーをはなし、「VGA モードを有効にする」を選択、[Enter] キーを押す。
- 6 「オペレーティングシステムの選択」画面が表示される場合には、使用するオペレーティングシステムを選択し、[Enter] キーを押す。
「Windows XP セットアップ」ダイアログが表示され、セットアップが始まる。
- 7 画面の指示に従ってセットアップを行い、再起動する。
- 8 前記の手順 4 ～手順 6 を実行する。
Windows のデスクトップが表示される。
- 9 C:\Hitachi\Drivers\SVGA\XP\Setup.exe をダブルクリックする。
「セットアップ プログラムによるこそ」画面が表示される。
- 10 「次へ」をクリックする。
「使用許諾契約書」が表示される。
- 11 「はい」をクリックする。
「Readme ファイル情報」画面が表示される。
- 12 「次へ」をクリックする。
「セットアップの進行状況」画面が表示される。
- 13 「次へ」をクリックする。
「セットアップ完了」画面が表示される。
- 14 「はい、コンピュータを今すぐ再起動します。」が選択されていることを確認し、
「完了」をクリックし、再起動する。

・・・
補足

- 初期設定状態に戻りたいときには、表示ドライバインストール手順書 (C:\Hitachi\Drivers\INSTTXT\XP\HIT_VGA.txt) の (6) 以降をご参照ください。
- クライアントモジュールに接続するユーザ端末側で、設定した画面解像度が 1024 × 768 ドットを超えているときは、クライアントモジュール単独で立ち上げると Windows ロゴ以降の画面が表示されません。「ディスプレイに画面が表示されないときには」P.7 の手順 1 ～手順 6 に従い、設定してください。手順 6 で「・・・[Enter] キーを押す。」のあとに、画面が表示されます。
- 表示ドライバの出力先は、「PC モニタ」(デフォルト)、「ノートパソコン」を選択できますが、「PC モニタ」のままお使いください。「ノートパソコン」を選択すると表示されなくなります。誤って「ノートパソコン」を選択して表示されなくなった場合、[Alt] キー、[Ctrl] キーを押しながら [F1] キーを押すことで表示は復旧します。

2

システムの運用と管理

この章では、1つのネットワーク構成例を元に、システムを運用するための設定について説明します。

ネットワーク構成	10
運用開始に必要な設定	11
FLORA bd で IPMI を使用するには	14

運用開始に必要な設定

クライアントモジュール毎の Windows のネットワーク設定とユーザ端末からリモートでの電源制御に必要な設定を行います。

Windows のネットワーク設定

LAN1 の設定を行います。クライアントモジュールには LAN1 と LAN2 の 2 つの LAN ポートがあり、通常は LAN1 しか使用しません。

LAN2 を使用する場合は、LAN1 を参考に設定してください。



- 設定後、「ハードウェアのネットワーク設定」をしてください。設定しないと正常に動作しません。
- LAN1 ではなく LAN2 を使用すると、ユーザ端末からリモートでの電源制御ができません。
- LAN1 と LAN2 で冗長構成を組むことはできません。
- 工場出荷状態では、ネットワーク接続の名称は LAN1 が [ローカルエリア接続 2]、LAN2 が [ローカルエリア接続] になります。間違えないようご注意ください。

- 1 [スタート] - [コントロールパネル] - [ネットワーク接続] - [ローカルエリア接続 2] を選択し、[プロパティ] をクリックする。
- 2 [ローカルエリア接続 2 のプロパティ] ダイアログの [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックする。



LAN2 の設定の場合は、[ローカルエリア接続 2] の代わりに、[ローカルエリア接続] を選択します。表示も [ローカルエリア接続のプロパティ] となります。

- 3 [インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] ダイアログで固定 IP アドレスなどの必要事項を設定し、[OK] ボタンをクリックする。



[ローカルエリア接続 2] は、[IP アドレスを自動的に取得する] の設定にしないでください。クライアントモジュールを特定できなくなります。固定 IP アドレスにしてください。

- 4 [ローカルエリア接続 2 のプロパティ] ダイアログの [OK] ボタンをクリックする。

ハードウェアのネットワーク設定

クライアントモジュールにネットワーク情報を設定します。



- LAN1 に LAN ケーブルが接続されていないと、設定できません。
- クライアントモジュールのリモート電源制御を行う場合も行わない場合も、「Windows のネットワーク設定」のあと、忘れずに設定してください。設定しないと正常に動作しません。

- 1 [スタート] ボタン - [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
- 2 “C:¥Program Files¥hitachi¥programs¥Tools¥Network¥htc-netset.exe” と入力し、[OK] ボタンをクリックする。

次の画面が表示される。

```
#####
本プログラムは、Windows上のLAN1ポートに設定されている
ネットワーク設定をハードウェアに登録します。

本プログラム実行前に、以下の設定をご確認ください。
- Windows上のLAN1ポートが固定IPアドレスで設定されていること。
- ハードウェアのLAN1ポートがネットワークに接続されていること。
- ハードウェアのLAN1ポートが【有効】となっていること。

実行時間は、約3分です。
#####
本プログラムを実行しますか? (Y=Yes,N=No)
```

- 3 [Y] キーを押し、しばらく待つ。
次の画面が表示されたら、[Enter] キーを押す

```
#####
[成功]
ネットワーク設定のハードウェアへの登録に成功しました。
#####
本プログラムを終了するには、何かキーを押してください。
```



画面に「失敗」と表示された場合は、手順 1 から再設定してください。

4 電源を切る。



クライアントモジュールに本設定を反映させるために、電源を切る操作が必要です。Windows の再起動では設定が反映されません。

電源を切る方法→「[電源を切る](#)」P.6

リモートからの電源制御パスワード変更

リモートからの電源制御パスワードは、管理者だけが変更できます。クライアントモジュール毎に KVM ケーブルを接続し、「FLORA bd 管理用ツール」で設定してください。
使用方法 参照→「FLORA bd 管理用ツール FD」内の「readme.txt」



クライアントモジュールの電源制御パスワードを変更した場合は、電源制御を行うユーザ端末やサーバ * 側も同一の電源制御パスワードに設定変更が必要です。クライアントモジュールとユーザ端末やサーバ * で使用する電源制御パスワードが異なる場合には、ユーザ端末やサーバ * からの電源制御は行えません。

* : 「ブレード PC コントロール for FLORA bd100」をインストールしたサーバ

FLORA bd で IPMI を使用するには

ユーザ端末からネットワークを経由して、FLORA bd の電源制御が行えます。制御するには IPMI(Intelligent Platform Management Interface Specification) v1.5 に準拠したコマンドを使用します。
WOL(Wake On LAN)機能と併用すると、ネットワーク経由で FLORA bd を起動することも可能です。

IPMI のコマンド

次のコマンドを利用し、ユーザ端末から電源の制御を行います。

No	制御内容	IPMI コマンド	コマンドの内容
1	存在確認	PING(RMCP level)	PING コマンド受信で、クライアントモジュールの存在を確認
2	主電源状態取得	Get Chassis Control	状態(主電源オン/オフ)の取得
3	電源制御	Set Chassis Control	クライアントモジュールの起動
			クライアントモジュールの強制終了
			クライアントモジュールの強制再起動
			クライアントモジュールのシャットダウン



制限

- リモートからの電源制御ができるのは、LAN1 です。
LAN2 は電源制御ができません。
- FLORA bd100A1, B2, A3, B3, A4, B4, B5 と同一のネットワーク環境では、LAN アナライザソフトなど、プロミスキャスモードの LAN 通信を有効にするソフトウェアは使用しないでください。使用した場合、同一ネットワーク上にある FLORA bd のリモート制御ができなくなることがあります。
- 通信ポート 623 および 664 は使用できません。
FLORA bd100 シリーズでは、通信ポート 623 および 664 をリモート制御専用のポートとして使用しているため、ほかのアプリケーションなどでは使用することができません。



補足

次の状態のときは、WOL 機能は使用できません。
この場合は、IPMI の起動コマンドをご使用ください。
・強制終了したとき

WOL (Wake On LAN) の設定

ネットワークからクライアントモジュールを起動する信号が流れたときに、クライアントモジュールを起動させることができます。これを WOL (Wake On LAN) といいます。

工場出荷状態では電源オフからの WOL はできませんが、スタンバイ状態および休止状態から WOL ができる設定にはなっていません。スタンバイ状態および休止状態から WOL を可能にしたい場合は、次のとおりに設定を変更してください。

補足

- 次の状態のとき、WOL 機能によりクライアントモジュールを起動できます。
 - ・スタンバイ状態
 - ・休止状態
 - ・電源オフ状態
- クライアントモジュールを強制終了したときは、クライアントモジュールは起動しません。
- LAN2 に関して、WOL を無効に設定している場合 (工場出荷設定)、スタンバイ状態および休止状態においてリンク OFF となります。

- 1 [スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [システム] をクリックする。
[システムのプロパティ] が表示される。
- 2 [ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする。
[デバイスマネージャ] が表示される。
- 3 [ネットワークアダプタ] をダブルクリックし、設定を変更するネットワークアダプタをダブルクリックする。

補足

表示されるネットワークアダプタ名は次のとおりです。

- ・ LAN1 : 「Intel(R) PRO/1000 PM Network Connection」
- ・ LAN2 : 「Intel(R) 82566MM Gigabit Network Connection」

- 4 [電源の管理] タブの [電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする] および [このデバイスで、コンピュータのスリープ状態を解除できるようにする]、[管理ステーションでのみ、コンピュータのスリープ状態を解除できるようにする] にチェックを付け、[OK] ボタンをクリックする。

3

ご購入時の状態に戻すには

クライアントモジュールをご購入時の状態に戻したいときは、セットアップし直します。使用中にエラーが何回も発生したり、立ち上がらないときも、セットアップし直してください。

準備する.....	18
一括セットアップする	19

準備する

次の準備を行ってください。

■ 必要なファイルをバックアップする

ご購入時の状態に戻すと、ご購入後に作成したファイルや、追加したアプリケーションなどが削除されます。記録可能なメディアに必要なファイルをコピーしてバックアップを行ってください。バックアップしたファイルを戻せるように元のフォルダなど保存先も控えてください。

■ ネットワークなどの設定を控える

ご購入時の状態に戻したあと、同じ環境で使う場合は、BIOS やネットワークの設定情報をメモしてください。

■ インターネットの設定を控える

ご購入時の状態に戻したあと、加入しているプロバイダに再び接続できるように、ユーザ名、パスワード、アカウント名など、インターネットの設定に必要な情報をメモしてください。通常は、契約時にプロバイダから送付された書類にこれらの情報が記載されています。その場合は必要ありません。

この後の作業の流れ

1 BIOS の設定をご購入時の状態に戻す。

…
補足

BIOS の設定を変更している場合は、『ユーザズガイド』を参照し、ご購入時の状態に戻してください。
詳細について→『ユーザズガイド』の4章「BIOS の設定」

2 一括セットアップする。

クライアントモジュールの HDD がご購入時の状態に戻ります。さらに、システムパーティションのサイズを変更したり、システムパーティションを購入時の状態に戻すこともできます。

詳細については「[一括セットアップする](#)」P.19 をご参照ください。

3 アプリケーションのインストールやネットワーク設定などを行う。

実際に使用している環境に戻すために、ネットワーク設定や使用するアプリケーションなどをインストールします。

詳細については2章「[システムの運用と管理](#)」P.9 をご参照ください。

一括セットアップする

ここでは『Product Recovery DVD-ROM (Windows® XP)』（以下、付属のディスク）を使用した一括セットアップ方法を説明します。これら付属のディスクから、一括セットアップを行うとドライブ C がご購入時の状態に戻ります。

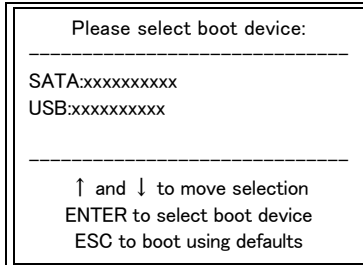
注意

セットアップし直すとハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは事前にバックアップをお取りください。

付属のディスクを使った一括セットアップ

- 1 クライアントモジュールの電源を入れ、クライアントモジュールの起動中、画面下部に「Press DEL to enter SETUP, F12 to enter BOOT MENU」と表示されたら、[F12] キーを押す。

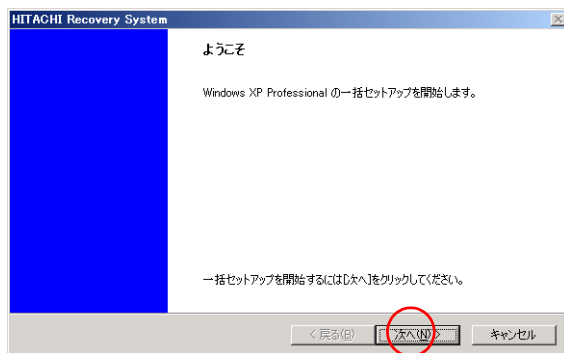
[Boot Menu] が表示される。



- 2 『Product Recovery DVD-ROM (Windows® XP)』を CD/DVD ドライブに入れる。カーソルを CD/DVD ドライブに合わせ [Enter] キーを押す。

[よろこ] 画面が表示される。

3 [次へ] ボタンをクリックする。



クライアントモジュールのチェックが行われ、チェック結果が正常の場合は、一括セットアップ方法の選択画面が表示される。

...

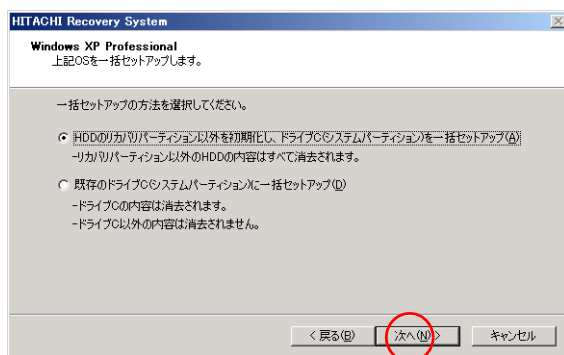
補足

一括セットアップを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。セットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でクライアントモジュールが再起動します。

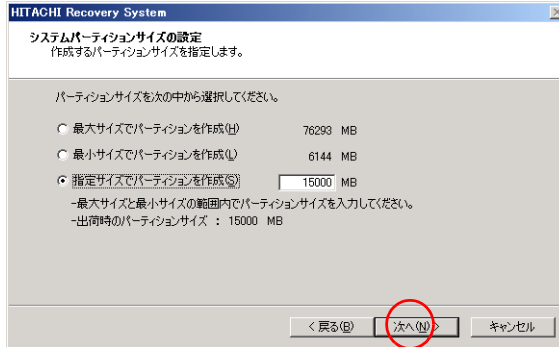
4 セットアップ方法を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

セットアップ方法は、次の2つから選択する。

- (1) [HDD を初期化し、ドライブ C(システムパーティション) を一括セットアップ] : こちらを選んだ場合は、手順 5 に進む。
- (2) [既存のドライブ C(システムパーティション) に一括セットアップ] : こちらを選んだ場合は、手順 8 に進む。

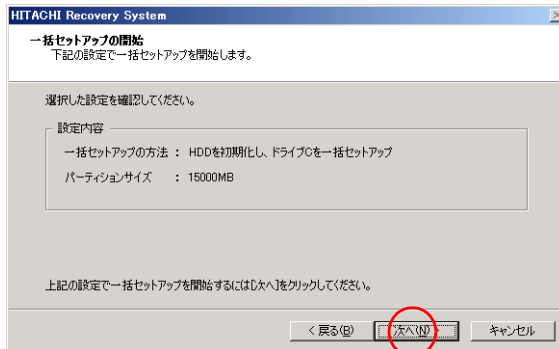


- 5 ドライブ C のサイズを選択し、[次へ] ボタンをクリックする。
 最大サイズで作成する場合は、[最大サイズでパーティションを作成] を選択する。
 最小サイズで作成する場合は、[最小サイズでパーティションを作成] を選択する。
 それ以外のサイズで作成する場合は、[指定サイズでパーティションを作成] を選択し、設定サイズ内でサイズを入力する。



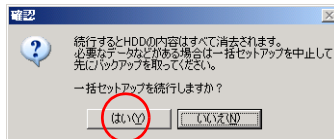
[一括セットアップの開始] 画面が表示される。

- 6 [次へ] ボタンをクリックする。



[確認] 画面が表示される。

- 7 [はい] ボタンをクリックし、手順 10 へ進む。



一括セットアップが開始される。

一括セットアップ終了後 [セットアップの完了] 画面が表示される。

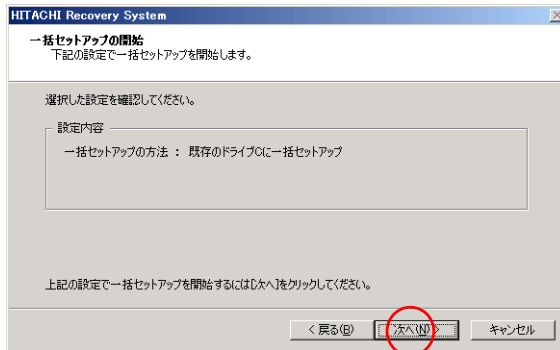


- [はい] ボタンをクリック後、HDD の内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
- [はい] ボタンをクリックしたあとはセットアップを中止できません。



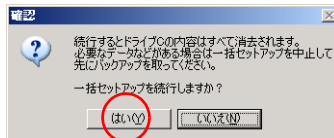
一括セットアップを中止する場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。[いいえ] ボタンをクリック後、手順 6 に戻ります。手順 6 で [キャンセル] ボタンをクリックするとセットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でクライアントモジュールが再起動します。

8 [次へ] ボタンをクリックする。



[確認] 画面が表示される。

9 [はい] ボタンをクリックする。



一括セットアップが開始される。

一括セットアップ終了後 [セットアップの完了] 画面が表示される。

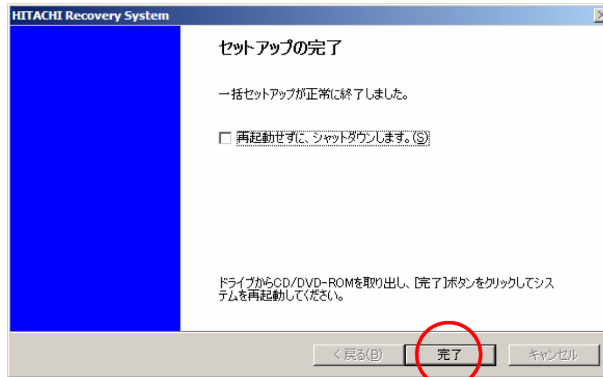


- [はい] ボタンをクリック後、C ドライブの内容はすべて消去されます。必要なデータなどがある場合は、セットアップを中止して、先にバックアップを取ってください。
- [はい] ボタンをクリックしたあとはセットアップを中止できません。

補足

一括セットアップを中止する場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。[いいえ] ボタンをクリック後、手順 8 に戻ります。手順 8 で [キャンセル] ボタンをクリックするとセットアップ中止の [確認] 画面が表示されますので [はい] ボタンをクリックしてください。自動でクライアントモジュールが再起動します。

10 CD/DVD ドライブから DVD-ROM を取り出し、[完了] ボタンをクリックする。



クライアントモジュールが再起動する。

制限

- 一括セットアップ終了後、シャットダウンしたい場合は、[再起動せずに、シャットダウンします。] にチェックを入れ、[完了] ボタンをクリックしてください。
- シャットダウンした場合は、次回電源を入れたときに Windows XP のセットアップから開始します。

11 以降、Windows XP のセットアップ手順に従って、Windows 環境をセットアップする。

補足

セットアップ方法→ 1 章の「使用許諾契約に同意しよう」P.2

4

付属ソフトウェアについて

付属ソフトウェアの使い方やセットアップ方法を説明します。

付属ソフトウェア	26
----------------	----

付属ソフトウェア



付属ソフトウェアは、このクライアントモジュール以外では使用しないでください。正常に動作しないおそれがあります。また、ドライバなどによっては、ハードウェア故障の原因になります。

ソフトウェアの種類

次のソフトウェアが付属されています。

- **Intel Chipset Software Installation Utility**
OS にチップセットを正確に識別させるためのユーティリティです。
- **表示ドライバ**
ディスプレイの画面表示を行うためのドライバです。
ディスプレイの色や解像度、リフレッシュレートなど、表示を細かく設定できます。



表示ドライバの解像度は、クライアントモジュールに接続するディスプレイ装置のサポートする解像度以上には設定しないでください。正しく表示されません。

- **サウンドドライバ**
サウンド機能を使用する場合に必要なドライバです。
- **LAN ドライバ (Gigabit ドライバ)**
LAN を使うためのドライバです。自動的に通信速度やモードを認識して最適な通信環境を設定します。
- **DMA 設定**
内蔵 IDE ファイル装置に対し、転送モード (DMA または PIO) を指定します。DMA モードを選択すると、データの読み書きを速くします。
パソコン出荷時の転送モードは、DMA モードに設定されています。
- **電源オプション設定**
パソコンに対し、電源オプションを指定します。
- **Symantec Ghost**
HDD の内容をその他のディスクにバックアップしたり、バックアップした内容を復元するプログラムです。
詳しい使い方については、次のファイルをご参照ください。
c:\hitachi\programs\Ghost\Readme.txt
c:\hitachi\programs\Ghost\Getting_Started.pdf
c:\hitachi\programs\Ghost\Ghost_imp_guide.pdf

■ Java Platform Standard Edition

Java 言語で開発されたソフトウェアを実行するときに必要なアプリケーションです。

■ FLORA bd ネットワーク設定

リモートからの電源制御を行うために必要な設定を行うプログラムです。

詳しい使い方については、次のファイルをご参照ください。

c:\Program Files\Hitachi\Programs\Tools\Network\htc-netset 使用方法 .txt

■ FLORA bd ハードウェアモニタ設定

次の 2 設定をするために必要なプログラムです。

- ◆ ハードウェア内のログ情報を Windows のイベントログに表示させる。
- ◆ Windows のハングアップなどの時に、ユーザ端末からの Windows 強制終了要求を受け付ける。



制限

「FLORA bd ハードウェアモニタ」をセットアップしていない場合は、ハードウェア内のログ領域がログ情報で一杯になると、新規ログは記録されません。その場合は、障害時の原因が特定できないことがあります。



補足

ハードウェア内のログ情報が一定数を越えた場合は、Windows のイベントログに表示した後、ハードウェア内のログ情報を削除します。

■ FLORA bd 管理用ツール：ネットワーク管理者専用ツール

リモートからの電源制御を行うために必要な設定を行う管理用ツールです。

詳しい使い方については、「FLORA bd 管理用ツール FD」内の「readme.txt」をご参照ください。

■ 省電力運用ソフトウェア「SAVINGDA Pro」試用版

あらかじめユーザーの設定したスケジュールによりコンピュータの電源管理を行い、省電力に役立つ機能を提供するソフトウェアです。「消費電力の削減」と「ユーザーの利便性向上」を両立します。

本ソフトウェアは、90 日期限付きの試用版です。インストールしてから 90 日間使用できます。

詳しい使い方については、次のファイルをご参照ください。

C:\Hitachi\Programs\SAVDPro\SDAPROMAN.pdf



制限

- システムにインストールしているアプリケーションなどによっては、省電力モードを利用できない場合があります。
- アプリケーションおよびネットワーク利用環境によっては、省電力モードを利用できない場合があります。
- 省電力モードからの復帰に失敗した場合、編集中のデータを失う可能性があります。省電力モードに入る前には忘れずに編集中のデータを保存してください。
- 省電力モードにはスタンバイおよび休止状態の二つのモードがあります。SAVINGDA Pro のスケジュール機能は休止状態を利用しますが、OS の設定によってはスタンバイ動作となります。休止状態で利用する場合、OS の「電源オプションのプロパティ」にある「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」のチェックボックスをチェックする必要があります。



- 本アプリケーションは省電力モードのスケジュール移行手段を提供するアプリケーションです。省電力モードの移行 / 復帰を保証するものではありません。

ソフトウェアの個別セットアップ

□ セットアップ済みのソフトウェア

次のソフトウェアは、出荷時状態セットアップ済みです。
再セットアップしたときにも、出荷時状態に戻ります。
個別セットアップする場合は、次の添付ファイルをご参照ください。

- Intel Chipset Software Installation Utility
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\XP\HIT_INF.txt
- 表示ドライバ
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\XP\HIT_VGA.txt
- サウンドドライバ
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\XP\HIT_SND.txt
- LAN ドライバ (Gigabit ドライバ)
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\XP\HIT_LAN.txt
- DMA 設定
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\XP\HIT_IDE.txt
- 電源オプション設定
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\XP\HIT_PWR.txt
- FLORA bd ハードウェアモニタ設定
出荷時状態でご使用ください。



個別セットアップを行うと、一括セットアップで組み込まれた場合と設定値が異なることがあります。



- 個別セットアップの順序は、
c:\hitachi\drivers\INSTTXT\XP\Install.txt をご参照ください。
- 標準のDVD-ROM&CD-R/RWドライブ名は、アルファベットの順でHDDの次の文字(ドライブ文字)になります。あらかじめ、ドライブ名をご確認ください。

□ 未セットアップのソフトウェア

HDD にインストールされ、セットアップされていないソフトウェアがあります。必要に応じて、次の手順に従いセットアップしてください。

■ Symantec Ghost

- 1 [スタート] ボタン— [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
- 2 `c:\hitachi\programs\ghost\Gholnst.bat` と入力し [OK] ボタンをクリックする。
[Symantec Ghost 標準ツール 11.0 - Install Shield ウィザードへようこそ] が表示される。
- 3 [次へ] ボタンをクリックする。
[使用許諾契約] 画面が表示される。
- 4 画面の指示に従ってインストールする。



機能によっては、使用できない場合があります。詳細については `c:\hitachi\programs\ghost\Symantec Ghost ご使用上の注意事項.txt` をご参照ください。



「Symantec Ghost」については、テクニカルなどのサポートを提供していません。
テクニカルサポートが必要な場合、シマンテック社より Symantec Ghost のライセンスとテクニカルサポートライセンスを所有台数分購入することで、シマンテック社よりテクニカルサポートを受けることができます。

■ Java Platform Standard Edition

- 1 [スタート] ボタン— [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
- 2 `c:\hitachi\programs\Java\jre-6-oem-windows-i586.exe` と入力し、[OK] ボタンをクリックする。
[使用許諾契約] 画面が表示される。
- 3 画面の指示に従ってインストールする。

■省電力運用ソフトウェア「SAVINGDA Pro」試用版

- 1 [スタート] ボタンー [ファイル名を指定して実行] をクリックする。
[ファイル名を指定して実行] 画面が表示される。
- 2 c:\hitachi\programs\savdapro\setup.exe と入力し、[OK] ボタンをクリックする。
[使用許諾契約] 画面が表示される。
- 3 [同意します] ボタンをクリックする。
[本プログラムは、インストールしてから 90 日試用できる体験版です。] 画面が表示される。
- 4 [OK] ボタンをクリックする。
[SAVINGDA Pro セットアップ] 画面が表示される。
- 5 [インストール] ボタンをクリックする。
[インストール先フォルダ選択] 画面が表示される。
- 6 [OK] ボタンをクリックする。
インストールが開始され、[インストールは完了しました] 画面が表示される。
- 7 [OK] ボタンをクリックする。

索引

■ F

FLORA bd を使用するには 14

■ I

IPMI のコマンド 14

■ P

Product Recovery DVD-ROM 19

■ W

Wake On LAN 15

Windows のネットワーク設定 11

■ あ

安全にお使いいただくために
運用時のご注意 ix

■ い

一括セットアップ 19

インターネット 18

■ こ

困ったときには v

■ さ

作業の流れ 18

■ し

重要なお知らせ iii

準備する 18

使用許諾契約 2

商標 iii

■ そ

ソフトウェア

DMA 設定 26

FLORA bd 管理用ツール 27

FLORA bd ネットワーク設定 27

FLORA bd ハードウェアモニタ 27

Intel Chipset Software Installation Utility 26

Java Platform Standard Edition 27

LAN ドライバ 26

Symantec Ghost 26

サウンドドライバ 26

省電力運用ソフトウェア 27

セットアップ済みのソフトウェア 28

ソフトウェアの個別セットアップ 28

電源オプション設定 26

表示ドライバ 26

付属ソフトウェア 26

未セットアップのソフトウェア 29

■ て

電源

入れ直す 6

入れる 2

切る 6

■ ね

ネットワーク構成例 10

■ は

ハードウェアのネットワーク設定 12

バックアップ 18

著作権 iii

■ ふ

付属のディスク 19

■ ま

マウスポインター [2](#)

マニュアルの表記

オペレーティングシステムの略称 [iv](#)

関連マニュアル [iv](#)

マーク [iv](#)

■ り

リモートからの電源制御パスワード変更 [13](#)

FLORA bd100 ソフトウェアガイド

Microsoft® Windows® XP 編

初 版 2008 年 4 月

第 4 版 2010 年 3 月

無断転載を禁止します。

株式会社 日立製作所 エンタープライズサーバ事業部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

<http://www.hitachi.co.jp>



再生紙

このマニュアルは再生紙を使用しています。

FB10002050-4